

北海道胆振東部地震から 厚真町が伝えたいこと



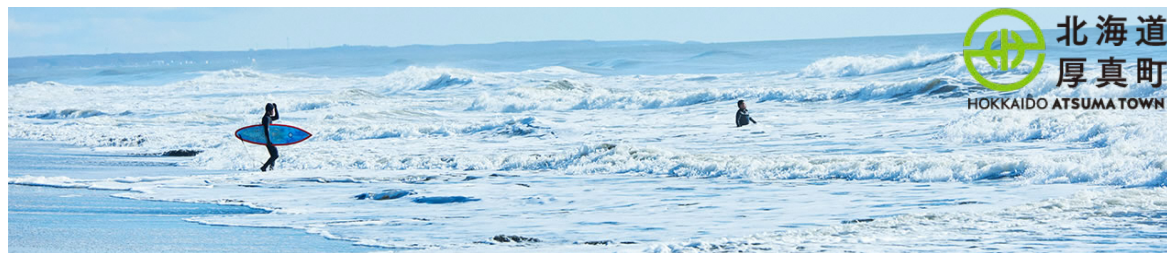
令和2年1月11日（土）

厚真町総務課研修防災グループ 地域防災マネージャー
厚真町まちづくり推進課企画調整グループ 主任

起田 淳
長瀧 夢子

（出典：北海道）

厚真町の概要



公式キャラクター

あつまるくん

頭には作付面積日本一
のハスカップ、胸元には
大きなおむすび、
背中にはサーフボード
を背負っている。

厚真の魅力宣伝部長と
して日々奮闘中。



1 位置

東西約17km、南北約33km、総面積約405km²
札幌から約65km(80分)、新千歳空港から約29km(35分)

2 地形

全般的に低平で北部は標高170m～400mの山地・丘陵

3 気候(過去10年平均)

夏は比較的涼しく、冬は積雪が少なく過ごしやすい。

(1) 年間平均気温: 7.2℃(最高: 31.1℃、最低: -22.9℃)

(2) 年間平均降水量: 1043mm(日最大: 65mm、1h最大: 23mm)

4 人口

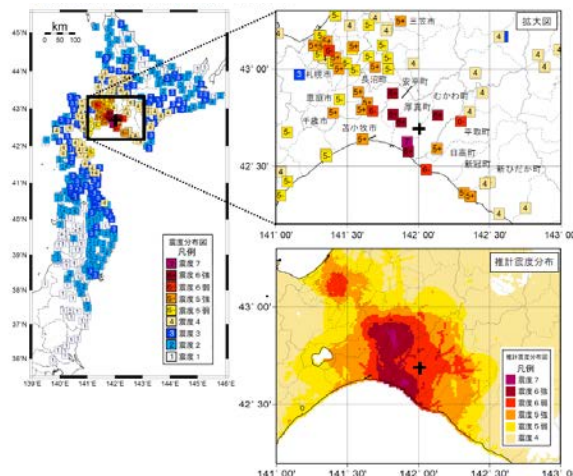
4,519人、2,123世帯(令和元年11月末現在)

5 産業

主に稲作を中心として、ハスカップが特産物



地震の概要・特徴



発生日時	震央地名等	最大震度
H30.9.6日(木)03時07分	胆振地方中東部(深さ37km、M6.7)	7
H30.9.6(木)06時11分	胆振地方中東部(深さ38km、M5.4)	5弱
H30.10.5(金)08時58分	胆振地方中東部(深さ31km、M5.2)	5弱
H31.2.21日(木)21時22分	胆振地方中東部(深さ33km、M5.8)	6弱

※ 東北東－西南西に圧力が加わった**逆断層型**地震

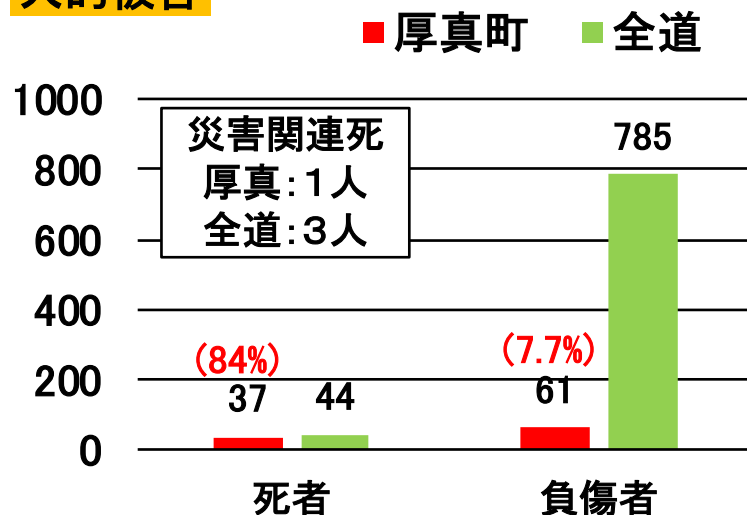
地震被害の特徴

- 大規模な山腹等の斜面が崩壊
 - **約3000万 m^3** の土砂が一気に崩落
 - 崩壊箇所**約6000箇所**以上
 - 崩壊面積**13.4 km^2** (札幌ドーム約44個分)
新潟県中越地震の約1.2倍(明治以降最大)
- 土層すべり
 - 傾斜が30度を超える急斜面だけでなく10度以下の斜面でも発生
 - ほとんどは**約9000年前**に降下した樽前山の火山灰土をすべり面として崩落
※ 過去9000年間、今回のような大きな斜面崩壊はなかったと考えられている。
- 河道閉塞
 - 大きなもので約800m**岩盤**から崩壊し、幅約1100mで河道を閉塞



被害状況等

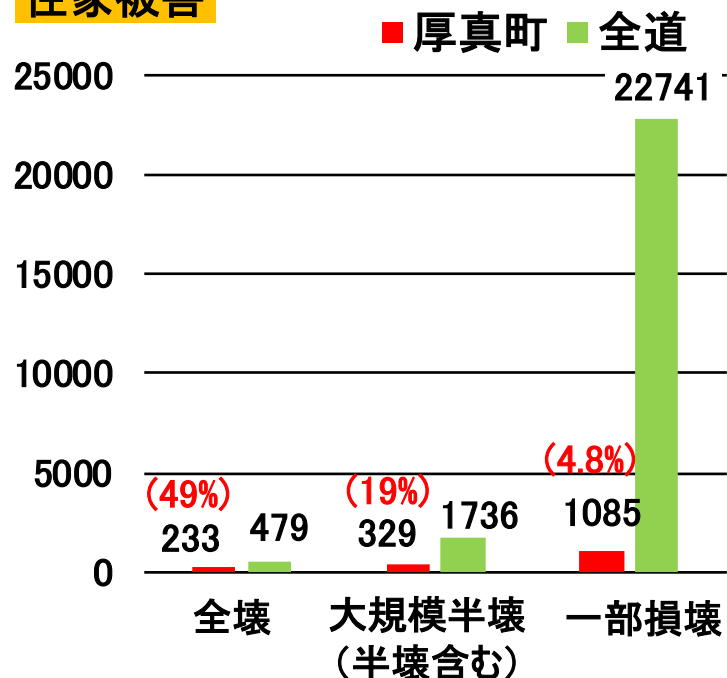
人的被害



ライフライン

区分	概要	要因等	復旧まで
道路	31路線 通行止め	路面・橋梁損傷 土砂崩れ等	・2日～23日で解除 ・橋梁損傷で69日間 ・未開通5路線
鉄道	JR日高線	軌道変移 橋梁桁ずれ	～11/18(74日間)
電気	全町停電	電力供給不足 土砂崩れ	～9/8(3日間)
水道	町内1942戸 (家畜等にも影響)	浄水施設損壊 配水管等の損傷	～10/9(34日間)

住家被害



農業・林業被害

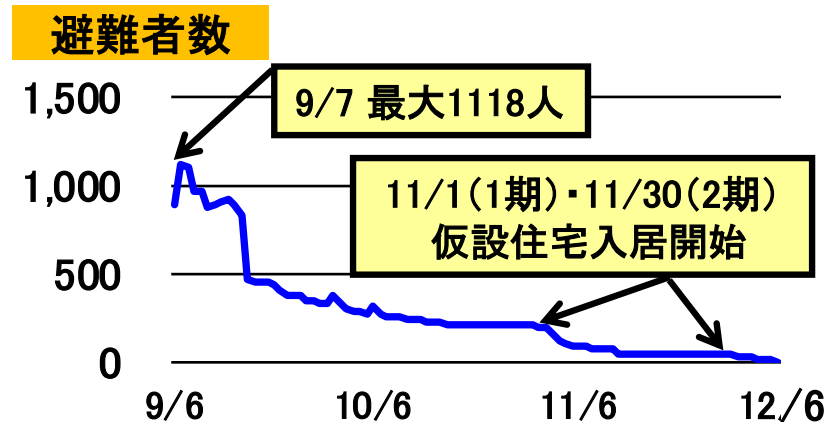
区分	概要	要因等
農業	農地91箇所(154.7ha) 農業用施設69箇所 農業機械・施設183戸 共同利用施設8か所	農地への土砂堆積 用水路等の損壊
林業	林道3路線 森林 3230ha	斜面崩壊

被害金額

区分	被害金額	
公共土木施設	188億円	道路、河川、橋梁、上下水道
農業関係	110億円	農地、農業用施設、共同利用施設
林業	458億円	林道、森林被害
その他	67億円	商工業、宅地堆積土砂、災害廃棄物等
計	823億円	

避難所開設

公設7箇所、最大避難者数1118人



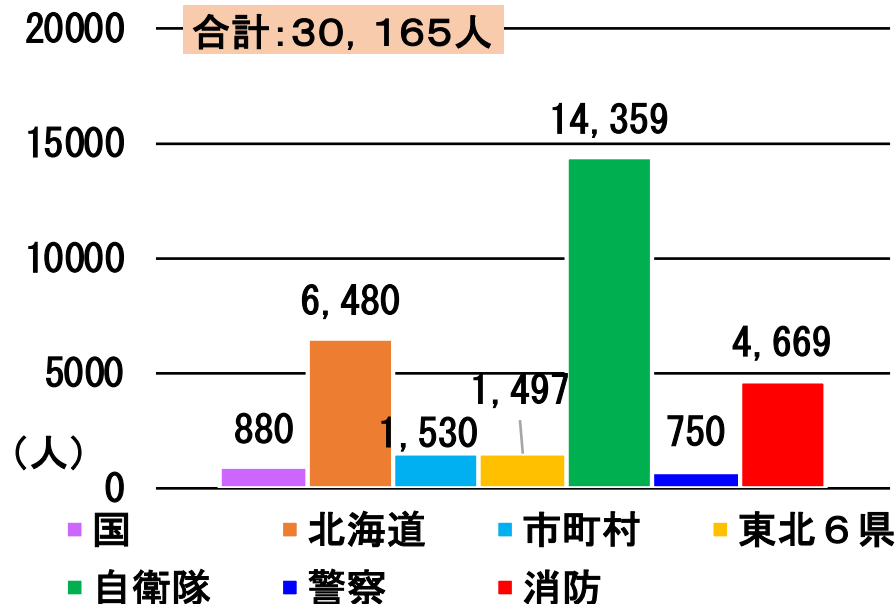
仮設住宅入居状況

※() 最多入居時
北海道 真町
HOKKAIDO ATSUMA TOWN

区分		世帯数	人数
建設型	プレハブ	115世帯	263人
	トレーラーハウス	11世帯	24人
借上型		17世帯	27人
公営住宅		14世帯	31人
合計		157世帯 (183世帯)	345人 (406人)



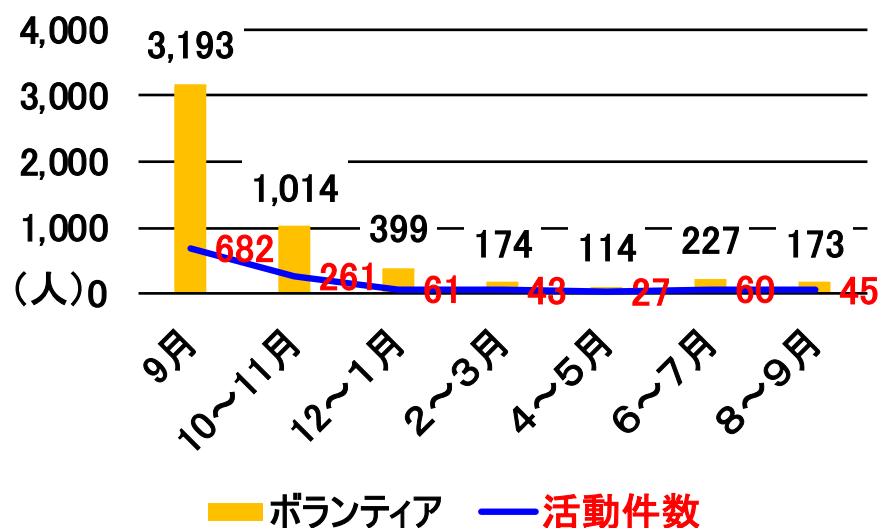
人的支援の状況(延べ人数)



区分	支援内容
国	総務省、国交省、気象庁、タイムライン
北海道	リエゾン、り災証明交付、避難所運営
市町村	環境、物資、水道応急、土木・下水道技術
東北6県	リエゾン、り災証明交付、避難所運営
自衛隊	人命救助、道路啓開、給水、給食、入浴、輸送
警察	人命救助、警戒活動
消防	人命救助、警戒活動



災害ボランティア活動状況



災害復旧・復興状況

災害復旧事業

国、北海道、町をそれぞれ事業主体とし、住宅、災害廃棄物処理、上下水道整備、道路・橋梁・河川・公園復旧、砂防、農地・農業用施設等、治山、林道整備等、約30項目について復旧事業を行っています。

多くは、令和3年度末までに終了予定で、一部、治山事業、森林造成、ダム用水路復旧については、令和6年度末までかかる予定

砂防事業



急傾斜地崩壊対策事業



災害復旧・復興計画

【基本方針】

町民や関係機関、震災をきっかけに繋がりを持った外部の人材などとの連携により、これまで暮らしてきたふるさと“あつま”を再生するとともに、これからも暮らしていきたい、次世代へ繋いでいくことができる“あつま”を実現するために「**住まい・暮らしの再建**」、「**なりわい（仕事）の再生**」、「**災害に強いまちづくり**」の基本方針に基づき、復旧・復興を進めていきます。

住まい・暮らしの再建

今後安心して住み続けられるように、住まいの再建支援や公共交通、インフラ等の環境整備の他、被災者の心身のサポートなどの保健・福祉・教育等を充実

なりわい（仕事）の再生

農業・林業・漁業・商業・工業等の各産業の早期復旧や活力の再生、雇用の維持を目指すとともに、経済規模の拡大に向けた取組

災害に強いまちづくり

震災の教訓を踏まえ、震災前の町の姿に復元するだけでなく、避難所や避難路の見直し等、防災・減災を推進し、しな⁶やかで強靱かつ持続的発展可能なまちづくり

現在の厚真町の様子

厚真町市街地



仮設住宅(表町公園)



吉野地区復旧状況

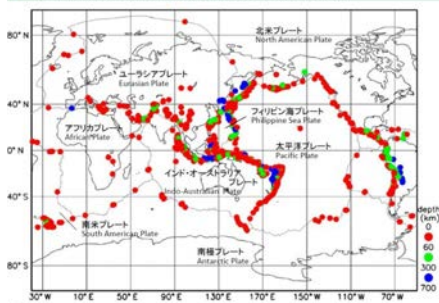


高丘地区復旧状況



地震を経験して思うこと...

1 世界のマグニチュード6以上の震源分布とプレート境界



(出典:内閣府防災白書)

我が国の活火山の分布



(出典:気象庁)

「地震大国日本」、「火山大国日本」
地震による大規模な土砂災害は、厚真町だけではなく、**日本中どこで起こってもおかしくない！！**

【平常時からの備えが重要】

○ 行政として

- ・ 職員の危機管理意識・災害対応識能の向上.....心がけ
- ・ 災害対応訓練の実施.....やっていない事は本番にはできない！
- ・ ハード・ソフト面の強化(インフラ、備蓄品、各種計画・マニュアル、災害協定 等)
- ・ 平常時から地域住民、関係機関との連携、関係の構築...顔の見える関係

○ 住民として

- ・ 自主防災組織の設置、防災リーダーの確保...地区防災力の向上
- ・ 地区防災計画の策定(タイムライン、避難計画、要援護者支援、安否確認要領 等)
- ・ 住民主体の避難所運営

後世のために!! (厚真版防災文化の伝承)

- 実際に起きたこと、見たこと、体験・体感したこと等について、記録・保存・発信
- 経験から学んだこと、学んだことから命を守るための取り組み等について普及
(特に子ども・お年寄りなど)

- 体制
1～2名
- 発災～現在の担当業務
 - 1 防災行政無線の原稿作成・校正・放送
 - 2 情報収集
(避難者数、安否情報、給水、配色、避難所、支援制度など)
 - 3 情報発信
(防災行政無線、町ホームページ、広報紙、SNS、報道機関へ
プレスリリース、支援制度ガイドブック)
 - 4 報道対応
 - 5 写真、動画撮影
 - 6 視察対応
 - 7 国や北海道への要請活動

広報業務だけでも手が回っていないが、通常業務、広報以外の業務に追われ、記録の保存・整理ができていない。

- 1 写真・動画・音声データ等の整理
(保存媒体、タイトル、位置情報、加工、公開・非公開の確認、クレジット、収集など)
- 2 メモ・資料の整理 (収集、テキスト化、データ化)
- 3 記録の重要性を職員で共有、意識付け
- 4 「記録」「アーカイブ」「伝える」などの言葉の捉え方が人によって大きく異なる。今後、何をどのように残し、伝えていくのか
- 5 職員数・自治体規模からどこまで実現できるのか

困っています。助けてください…



2018年9月6日、午前3時7分、
町の景色が誰も知らない景色に変わった

今でも夢だったら…と思ってしまう
4,700人の町民みんなが、まだこの現実を受け止められていない

でも、手を差し伸べてくれる仲間がいた
私たちのことを気にかけて、背中を押してくれた日本中の人たち
だから、少しずつ前を向くことができた
下を向いていても、落ち込んでいても、何も変わらない、悲しい町で終わらせない

また、ここから強くなる
私たちは厚真で生きていく
厚真を好きな気持ちは、これからも変わらない

町で踏ん張る私たち、
応援してくれる人たち、
想いを寄せてくれる人たち、
気にかけてくれる人たち、
みんな、みんな、ATSUMA LOVERS

日本中の「ATSUMA LOVERS」とともに、
明日の厚真を。



(2018年12月26日公開)

明日への厚真への“愛”ことば（キャッチフレーズ）とシンボルマークを制作

■制作メンバー

公立大学法人札幌市立大学デザイン学部

安齋 利典教授、福田 大年講師

Futaba. 児玉 美也子さん

（イラストレーター、グラフィックデザイナー）

東北大学災害科学国際研究所 定池 祐季助教

町内デザイン事業者、町職員

■ATSUMA LOVERSとは

厚真で生きる人、足を運んでくれた人、少しでも厚真を想っている人

■企画

広告（JRタワー札幌ピラービジョン広告、AIRDO機内誌）

厚真町の想いを写真に撮って共有「# ATSUMA LOVERS」

（SNS写真投稿企画）

ステッカー配布、ポスターや町封筒などマーク印字、企業等へ協力依頼

多大なるご支援をありがとうございました。
今後ともよろしくお願いいたします。



願う暮らし、あつまる。



厚真町ホームページ (<http://www.town.atsuma.lg.jp>)